

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月7日

【評価実施概要】

事業所番号	870500410		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	石岡市東府中1-10 (電話) 0299-35-8801		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年8月9日	評価確定日	平成20年2月12日

【情報提供票より】 (平成19年7月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月2日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	17 人	常勤 9人, 非常勤 6人, 常勤換算 5人	

(2) 建物概要

建物構造	平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (7月21日現在)

利用者人数	26名	男性 7名	女性 19名
要介護1	10名	要介護2	5名
要介護3	7名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	2名
年齢	平均	最低 63歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	美野里病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営理念は「やさしく、しんせつ、ていねいに」を掲げ、全職員がその意義を理解するとともに、日常的に確認しながら実践している。
運営推進会議を通して関係機関、団体、地域とのコミュニケーションも良く、サービスの質の確保と向上に重要な役割を果たしている。
書類等も整い記録内容も明白であり、介護サービスに活かしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の自己評価や外部評価でわかった課題について、改善計画を立て課題を改善しているため、今後は利用者一人ひとりに合った入浴支援などに取り組むことを期待する。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者や職員全員が自己評価、外部評価の意義を理解し、職員全員で自己評価を行っている。 自己評価の課題について、改善計画を作成するなど、サービスの向上に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進委員会を2ヶ月に1回実施しており、運営推進会議で出された意見や要望を参考に、サービスの向上に活かしている。 市の関係部署とホームで直面している運営やサービスの課題について相談するなど、共に取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの意見を聞けるよう意見箱を設置するとともに、相談員を配置している。 出された意見や要望、不満や苦情などはミーティングで話し合い、運営に反映させている。 利用者の暮らしぶりや心身の状態について、家族の来訪時にきめ細かく報告している。 また、「ひまわり便り」を発行し、ホームでの生活の様子を報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所は地域の一員として地域活動に参加し、利用者が地元の方々と交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は全員が理念を共有するとともに、理念を実践できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域の一員として地域活動に参加し、利用者が地元の方々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や職員全員が自己評価、外部評価の意義を理解し、職員全員で自己評価を行っている。自己評価の課題について、改善計画を作成するなど、サービスの向上に取り組んでいる。前回の自己評価や外部評価でわかった課題について、改善計画を立て課題を改善している。	○	今後は利用者一人ひとりに合った入浴支援などに取り組むことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会を2ヶ月に1回実施しており、運営推進会議で出された意見や要望を参考に、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の関係部署とホームで直面している運営やサービスの課題について相談するなど、共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや心身の状態について、家族の来訪時にきめ細かく報告している。 また、「ひまわり便り」を発行し、ホームでの生活の様子を報告している。 金銭管理は出納伝票に記入し、家族に提示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見を聞けるよう意見箱を設置するとともに、相談員を配置している。 出された意見や要望、不満や苦情などはミーティングで話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、担当職員が代わっても利用者にはダメージがないよう職員を固定化するとともに、職員が利用者との関係構築ができるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の向上を図るため、学習会や研修会に参加できるよう計画を立てている。研修を受講した職員は、報告書に研修の内容等をまとめ、職員会で発表している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	設置法人内の事業所はもとより、市内の事業所とも交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が利用者宅を訪問し、利用者や家族等と相談するなど、利用者が入居前に職員等に馴染めるよう環境づくりをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者が人生の先輩であるという考えを共有している。 また、利用者を介護するばかりでなく、お互いに協働しながら、和やかに生活ができるよう場面づくりや声かけをしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者に関わる中で声かけや言葉、表情などから、利用者一人ひとりの思いや希望、意向を把握できるよう努めている。 意思の疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得るようにしている。 利用者にとって最良の暮らし方を家族を交え検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映させて作成している。	○	介護計画の作成にあたり、利用者一人ひとりの家族から意見や相談できる環境づくりを提案する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を3ヶ月に1回見直すとともに、状態に変化があった場合は、変化に応じ随時見直ししている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族等の要望に幅広く対応できるよう、医療連携体制加算を取得するなど、設置法人と連携して支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでは、利用者のかかりつけ医に診察できるよう家族と協力して通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうなど、適切な医療支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や終末期の対応について、家族、医療機関及びかかりつけ医と繰り返し話し合っている。	○	重度化や終末期について家族との話し合いの結果を記録に残すとともに、方針を取り決め全員で共有することを提案する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は利用者のプライバシー確保について、職員会やミーティング時に話すとともに、日々のかかわりをリーダーが点検している。 記録書の保管、管理にも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れを作っているが、利用者一人ひとりのペースに応じた支援を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が食事の準備、食事、後片付けを一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が楽しく入浴ができるよう、利用者の好みやタイミングに合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や希望などを話し合い、利用者一人ひとりに合った役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は利用者の心身の状態を把握し、利用者一人ひとりの希望に合った外出の方法を取り、散歩、ドライブ、買い物や外食などを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は常に利用者一人ひとりの動向を見守ることにより、日中は玄関に鍵をかけずに自由に入出入りしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成するとともに、年2回消防署の指導を受け、利用者とともに避難訓練、避難経路の確認、消火器等の使い方などの訓練を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の摂取量は一人1日1,400カロリーを目安とし、バランスの取れた献立をたてている。 水分量を1日1,300CC~1,500CCくらい摂取するよう毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各所に利用者の作品や写真を飾り、居間には花や額などの好みの品々を飾り、家庭的な雰囲気となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に利用者が使い慣れた物、好みの物、馴染みの物などを持ち込み、利用者が安心して生活できる環境を整備している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。